



5万分の1地質図幅の新刊

魚貫崎及び牛深 (阿久根の一部を含む)

ONIKIZAKI AND USHIBUKA

5万分の1地質図幅
地域地質研究報告

著者 高井保明・佐藤博之

発行 工業技術院 地質調査所

取扱先 東京地学協会 (03)261-0809 262-1401
そのほか全国主要書店

販売価格 2,390円

本報告は永年九州出張所に勤務され 去る57年正月早々死去された 故高井保明博士が 昭和24年から38年にわたって行われた天草炭田の石炭調査研究を基とし 基盤岩と新第三系を緊急調査して完成させたものである。高井博士はかねて病臥中であつたが 病床において執筆に専念され 最後の打合せ段階ではも早それが不可能であつた。謹んで高井博士の御冥福をお祈りするものである。

本地域は天草無煙炭として明治初年から昭和47年まで稼行されて来た地域であり 白亜紀の姫浦層群の分布地として 古第三紀の貨幣石の産する地域として名高い。地質図を完成するに当たり 西端の長崎変成岩類については 服部 仁・磯見博両博士の 東端獅子島の御所浦層群については山本信一・速水 格両博士の業績に負っている。

本地域の基盤とされているのは 西南端海中に姿をみせている中瀬変斑れい岩である。本岩は1977年の20万分の1地質図幅「野母崎」で初めて示された岩石で 本報告でその詳細が明らかとなった。日本にもまだ地質学的秘境がある1例であろう。上部白亜系は御所浦層群と姫浦層群からなる。本書においては姫浦層群の化石・岩相記載が著者の人柄を示すかの様に対象に対して忠実に行われ 特に天草下島における白亜系と古第三系の境界については詳細な説明が述べられている。古第三系は赤崎層群・下島層群・坂瀬川層群からなるが 赤崎層群と下島層群の福連木層に力が入れられており夾炭層の砥石層については一通りふれられている。これは著者が別稿として天草炭田図を残したためと考えられる。地質構造 重力調査についても手際よくまとめられている。

新第三系は長島に主に分布する長島火山岩類で 肥薩火山岩類に属している。最下位は鮮新世と考えられる溶結凝灰岩で長島と天草の両方に分布する。その上位に酸性凝灰岩からなる茅屋層 安山岩の凝灰岩・砂岩などからなる宮之浦層 小浜安山岩 行人岳安山岩と累重しているが その分布はいずれも南寄りで小さい。新たに化学分析値が8個加わつた。

地 質 ニ ュ ー ス

昭和58年3月1日

編集 集
発行人
発行所
印刷

総発売元

第343号

定価 ¥540

発行

工業技術院地質調査所
林 久 雄
株式会社 実業公報社
東京千代田区九段南4の2の12
Tel. (03)265-0951 (代表)

振替口座 東京 32466

株式会社 実業公報社
出版事業部

3月号

千実費